

●待降節第一主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第四十六編」

万軍の主は

わたしたちと共にいます。

ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。



## 杯を飲むべきではないか

「彼らを聖なる者としてください」と、弟子たちのための祈りを終え、弟子たちと共に、ギドロンに向こう側、「ゲッセマネ」にある園の中に入られました。イスカリオテのユダもその場所を知り、一隊の兵士と、祭司長たちやファリサイ派の人々の下役たちを引き連れてやって来ました。松明やともし火を手にするだけでなく、強盗にでも立ち向かうかのように剣や棒を持って来ました。

数時間前、晩餐の前に、主に洗ってもらったその足で、自らの指導者たちのところへ行き、兵士たちとファリサイ派の下役たちを連れて来るとは。しかも今いる園は、時を共にし、共有していた親密な関係を表す場所です。そこに剣と棒を手にする彼らと一緒に立っているそのユダの裏切りはどんなにか深い痛みと悲しみであったことでしょうか。武器を手にした暴力による痛みがこれに及ぶものでしょうか。

ナザレのイエスを捜している彼らに、主は「わたしだ」と言っただけではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちは去らせなさい」と言われました。弟子たちを守るためです。ヨハネはこの主イエスがとられた行動を「『あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした』と言われたイエスのことが実現するためであった」と敷衍しています。

主ご自身のことばの実現は、その時と場所にキリストがおられ、そのために主が直に行動しておられたことに気づかされるのです。これまで、父が与えられた彼ら弟子たち一人も失うことがないように、一人一人、3年という時をもつて、あらゆる偽りの教えから、ファリサイ派の悪いパン種からも、ユダヤ人の物理的な暴力、陰謀からも彼らを守り導いてこられました。それら一つ一つの主の言動によって、一人も失いませんでしたとの主のことばが実現されたことを記憶したいのです。

弟子のペテロが剣を抜きました。そして、大祭司の手下に打つてかかり、その右の耳を切り落としたのです。彼は力でも戦え

る人。剣を振るうほど、また相手の耳を切り落とすほどでした。ところが、この後、主が捕えられ、連れていかれた大祭司の家の中庭で、ある女中から「あなたも、あの人の子の一人ではないか」と問い詰められると、「違う」と答えるのです。3度も主を知らないと言ってしまったのです。剣や棒を持つ人たちに對抗するより、命を守ろうと必死に抵抗するより、力の抵抗はせず無防備な状態で自分の命が危険にさらされることのほうが難しく、できないことと思わされるのです。

主は「剣をさやに納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか」と言われました。主イエスに「力」がないからではありません。12軍団よりも多くの御使いを動かすこともできる方です。この世は自分を守るために剣を抜くのです。物理的な剣だけではなく、批判し、指摘し、人を追い込む言葉の剣を抜き、振るう。これらを私たちが見るのはいたって容易なことではないでしょうか。できれば12軍団のような援軍が自分についていてほしいと思うのです。

人にできないことは、戦うことではなく、人を裏切らないために自分を守らないこと。人のために杯を飲むこと。そのために忍耐し、あらゆる悪口、誹謗、暴力を受けても抵抗せず、黙ることではないでしょうか。言葉の剣をさやに入れないままでは、自分が飲むべき杯が見えもしないのです。

「剣をさやに納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか」と。主は杯を飲み干されるのです。そして十字架の上で「成し遂げられた」と言われました。ご自分を知らないと言う弟子のペテロのためにも杯を飲み、ペテロを再びご自分の友として、2度と切り離すことのない関係にまで築いてくださるのです。

キリスト者はこの世から贖い出された者たちです。剣を抜き、日々を歩むこの世の生き方から決別して、自分自身を召してくださったキリストが、自分の代わりに一つ一つ、一つ一つすべての時を通られ、杯を受けられ、飲み干されたその神のことばの実現を土台にして生きる者たちです。

2024年度

## 教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

## わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

### 《今日のお知らせ》

○ 今日からアドベント(待降節)に入ります。アドベントのご挨拶とクリスマス献金袋を配布しましたので、ご覧ください。

○ 礼拝後、アドベントとイブ礼拝奉仕のための教会員懇談会を、引き続き、信仰者に学ぶ会を地下ホールで行います。聖書をお持ちの上、ご参加ください。

○ 学び会の後、運営委員会、各小委員会をそれぞれ行います。

### 《礼拝伝道委員会より》

本日、礼拝後の教会員懇談会では、先にご案内してありますように、一二月二四日クリスマススイブ礼拝の、礼拝堂内およびロビーなどでの様々な奉仕について、詳しくご説明ご相談したく予定しています。みなさまのご参加をよろしくお願いいたします。

### 《ぶどうの会より》

本日のぶどうの会は休会です。

### 《コイノニア教育センター

### 有志の会より》

次週一二月八日にケニアのコイノニアグッズを販売いたします。色鮮やかなバッグやポーチ、おいしいスイーツも少し用意してお待ちしています。ディアコニアショップの前で、子ども礼拝、主日礼拝の後、各三分ぐらいの予定です。どうぞお立ち寄りください。

### 《手仕事の会オリーブより》

次週一二月八日に、ケーキの販売をいたします。時間は、一〇時〜一〇時二〇分まで、と、礼拝後、およそ一〜四時五分〜一二時三〇分までの二回です。値段を一一〇円に上げさせていただきますので、お釣りのないようにご用意下さいますと嬉しいですよ。お待ちしております。

《交読詩篇》

※会衆は太字を唱和します。

【詩篇四十六篇】

指揮者に合わせて。コラの子の詩。アラモト調。歌

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。

苦難のとき、必ずそこにいます  
助けてくださる。

わたしたちは決して恐れない

地が姿を変え

山々が揺らいで海の中に移るとも

海の水が騒ぎ、沸き返り

その高ぶるさまに山々が震えるとも。

大河とその流れは、神の都に喜びを与える

いと高き神のいます聖所に。

神はその中にいますし、都は揺らぐことがない。

夜明けとともに、神は助けをお与えになる。

すべての民は騒ぎ、国々は揺らぐ。

神が御声を出されると、地は溶け去る。

万軍の主はわたしたちと共にいます。

ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。

主の成し遂げられることを仰ぎ見よう。

主はこの地を圧倒される。

地の果てまで、戦いを断ち

弓を砕き、槍を折り、盾を焼き払われる。

「力を捨てよ、知れ

わたしは神。

国々にあがめられ、この地であがめられる。」

万軍の主はわたしたちと共にいます。

ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。

《今日の子ども礼拝》

説教 「この子の名はヨハネ」

聖書 ルカ1章57〜64節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「神にできないことは何一つない」

聖書 ルカ1章26〜38節

説教者 宮間彰広兄

●主日礼拝(午前10時30分)

讃美歌 96番 327番

説教 「自分に頼れるか」

聖書 ヨハネ18章12〜27節

説教者 黄允湜牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 97番 95番  
説教 「希望をもってクリスマスを」  
聖書 ルカ1章5～25節(新約 P.97)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「来たりませ、異邦人の救い主」 J.S.バッハ

### ○讃美歌97番

- 1.朝日は昇りて 世を照らせり  
暗きにすむ人 きたりあおげ  
知恵に富みたる主 世にいでたり  
愚かなる人は きたりまなべ
- 2.力にみつる主 世にのぞめり  
かよわき人々 きたりたのめ  
安きを賜う主 世にくだれり  
苦しめる人は きたり受けよ
- 3.救いを賜う主 世に生まれぬ  
高きも低きも きたりいわえ  
天地しらす主 世にあらわる  
よろずの物みな どよみうたえ  
アーメン

### ○讃美歌95番

- 1.わが心は あまつ神を とうとみ  
わがたましい すくいぬしを  
ほめまつりて よろこぶ
- 2.数に足らぬ はしためをも 見すてず  
よろず代まで さきわいつつ  
めぐみたもう うれしき
- 3.御名は清く 大御業はかしこし  
代々にたえぬ みいつくしみ  
あおぐものぞうくべき
- 4.低きものを 高めたもう みめぐみ  
おごるものを とりひしぎて  
散らしたもう みちから
- 5.アブラハムの すえをとわに かえりみ  
イスラエルを 忘れまさで  
救いたもう とうとさ  
アーメン

聖餐曲「久しくまちにし」 J.H.シャフナー

後奏曲「アルザスのノエル」 A.ギルマン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。